

本年7月に実施した標記学校経由のアンケート調査の概要について、調査結果の主なポイントに絞ってクロス集計結果を含め報告するもの。

集計結果は単純集計結果（学年別）とともに、経済的な影響を見るため「所得分類」別のクロス集計結果を示し、また保護者との関わりが影響すると思われる項目は「家族構成（ひとり親・ふたり親）」別のクロス集計結果を示した。

なお、「所得分類」は、国の「国民生活基礎調査」による「相対的貧困率」の算出方法に沿って「貧困線」を設定し分類したもの。

## 調査結果のポイント

### 1. 所得等の状況

1世帯当たり平均所得金額は560万円、世帯の可処分所得を算出すると中央値は238万円、その1/2の貧困線は119万円となった。この貧困線未満の割合は14.0%となった。（P3（2））

### 2. 調査結果の特徴

#### （1）経済的課題、経済的理由による困難な経験

・ふたり親と比較し、ひとり親世帯では所得が低く母子世帯では顕著である。（P5④）

・「経済的な理由で困難となった経験」では、全ての項目において所得分類が低い世帯の割合が高い。  
（P9下段①-1）

・「子どもが希望したができなかった経験」では、全ての項目において所得分類が低い世帯の割合が高い。（P10上段①-2）

#### （2）子どもの健康・食習慣等、保護者と子どもとの関わり

・所得分類が低いほど子どもにムシ歯がある割合は高い傾向にある。（P6②-2）

・朝食を食べる頻度や保護者と一緒に夕食を食べる頻度など、ひとり親世帯で低い傾向にある。  
（P7④-2, ⑤）

・ひとり親世帯では、子どもと過ごす時間、話す機会など子どもと関われる時間が短い傾向にある。  
（P8②-2, P9③-2）

#### （3）子どもの学習・学校生活等

・子どもの成績では、所得分類が低いほど「遅れている」と回答した割合が高い傾向にある。  
（P10下段①-2）

・所得分類が低いほど家庭での学習時間が短く、また、学習塾の利用が少ない傾向にある。  
（P11②-2, ③-2）

・学校は「すごく楽しい」「まあまあ楽しい」合わせて9割近い回答であった。（P12④-1）

・学校が楽しくない理由では、所得分類が低い層で「勉強が嫌い」「授業がわからない」の割合が高い傾向にある。（P13④-3）

#### （4）悩み事や相談できる人の有無

・悩み事の有無（保護者）では、所得分類が低いほど悩みを抱えている傾向にある。（P13中段①）

・相談できる人の有無では、ひとり親で「無」の割合が高い傾向にある。（P13②-1）

・子どもの悩み事等では中学2年で「学校の勉強のこと」「進路のこと」が高い。（P14②-4）

#### (5) 子どもの将来・希望

- ・保護者が希望する子どもの進学先は、全体では6割近くが大学以上の希望であるが、所得分類が低い層では4割程度と低い傾向にある。(P15①-1)
- ・希望通り進学できると思わない理由として「現在の子どもの学力や成績から」が5割を超えているが、所得分類が低いほど「経済的な余裕がない」の割合が高くなっている。(P15①-3)
- ・保護者・子どもとも、所得分類が低いほど将来に希望を持つ割合は低くなる傾向にある。  
(P15②-1, P16②-3)

## 調査結果の概要

### 1. 調査概要

#### (1) 調査の趣旨・目的

子どもの将来のために必要な環境整備と教育の機会確保を図るため、子どもたちがどのような生活を送っているか実態を把握し、特に経済面や社会的な理由による困難を抱えている子どもたちの課題を把握することで、今後の施策検討のための基礎資料とする。

なお、この調査は熊本県と協調して実施しており、調査項目等を調整し実施。

#### (2) 調査対象・調査方法

- ①子どもを持つ世帯：2学年（小5・中2）×各3,000世帯（子どもと保護者）  
計6,000世帯 12,000人へ学校経由により調査票配布
- ②その他、要支援者（就学援助、児童扶養手当、生保受給世帯）への郵送アンケート調査  
支援者側（学校関係者、児童福祉施設、公的機関等支援者など）へヒアリング実施  
(②については最終報告書に掲載予定)

#### (3) 対象者の抽出方法

- ①本市内の子どもの縮図となるよう、地域的人口バランスを考慮し、各区毎の子どもの人口按分により、各区の標本数を決定。
- ②区の標本数に応じ区内の地域バランスを考慮し学校を選定。
- ③選定した学校の対象学年の全児童・生徒に対し学校から調査票を配布、学校で回収。

#### (4) 調査項目

- ・世帯の属性（家族構成、収入・就労状況）
- ・生活状況（子どもの生活習慣(食事・睡眠・健康・テレビ・スマホの利用)、親子の関わり)
- ・学習・文化面（勉強時間、進学意向、塾・習い事、子どもの意識）
- ・物質的剥奪（食料、学習用具、医療、福祉制度）
- ・社会関係の欠如（学校・地域の行事への参加、相談相手の有無）
- ・心理・精神面（自己肯定感、悩み事） など

#### (5) スケジュール

H29年7月3日～7月21日	学校経由アンケート調査期間
H29年9月上旬	単純集計速報
H29年11月中旬	調査結果概要公表
H30年1月	調査結果報告書公表

## 2. 調査結果(概要) (学校経由アンケート)

### (1) 回収率

#### ①学年別

小5、中2とも回収率に大差なく  
76%を超えた。

		配付数	回収数	回収率
小5	親	3,012	2,329	77.3%
	子	3,012	2,325	77.2%
	計	6,024	4,654	77.3%
中2	親	3,024	2,274	75.2%
	子	3,024	2,263	74.8%
	計	6,048	4,537	75.0%
全体	親	6,036	4,603	76.3%
	子	6,036	4,588	76.0%
	合計	12,072	9,191	76.1%

#### ②行政区別

中央区で7割に満たなかったが、他の区  
では8割近い回収率となった。

	配布数	回収数	回収率
中央	2,440	1,689	69.2%
東	3,550	2,802	78.9%
西	1,292	991	76.7%
南	2,392	1,829	76.5%
北	2,398	1,876	78.2%
不明		4	
計	12,072	9,191	76.1%

### (2) 各項目の調査結果 (主な項目を抜粋)

調査結果の主なポイントについて、単純集計結果(学年別)とともに経済的な影響を見るため、「所得分類」別でのクロス集計結果を示した。

また保護者との関わりが影響すると思われる項目は「家族構成(ひとり親・ふたり親)」別でのクロス集計結果を示した。

なお、「所得分類」の取り扱いについては、国の「国民生活基礎調査」による「相対的貧困率」の算出方法に沿って「貧困線」を設定し分類した。ただし、国の調査とは対象者や調査手法等が異なるため、国の「貧困線」や「相対的貧困率」と単純に比較し得るものでない。

#### ※貧困線の設定

可処分所得が算出可能な世帯の可処分所得を算出すると、中央値及び貧困線は右となった。

また、この貧困線未達の割合は14.0%であった。

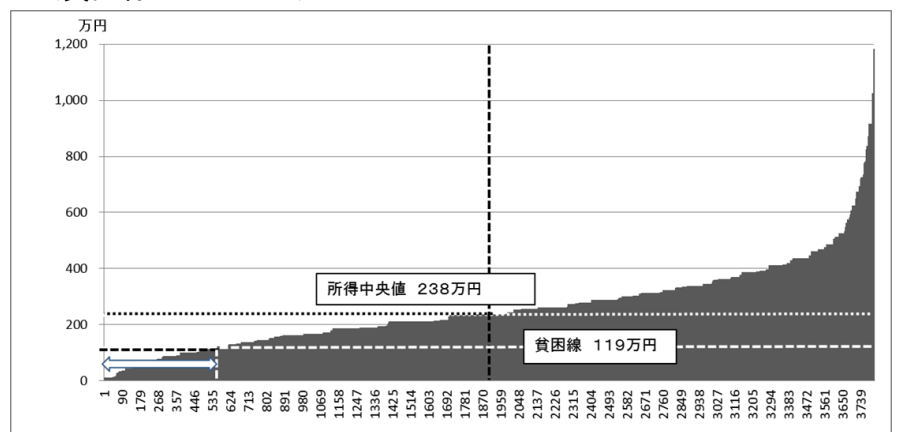
(世帯の可処分所得：世帯所得を世帯人員で調整するため世帯人員の平方根で除したもの。)

保護者総数	4,603 世帯
世帯所得平均値	560 万円
可処分所得算出可能世帯数(n)	3,804 世帯
n/2	1,902
可処分所得中央値	238 万円
貧困線(中央値の1/2)	119 万円
貧困線未達	534 世帯
貧困線未達の割合	14.0%

#### (所得分類)

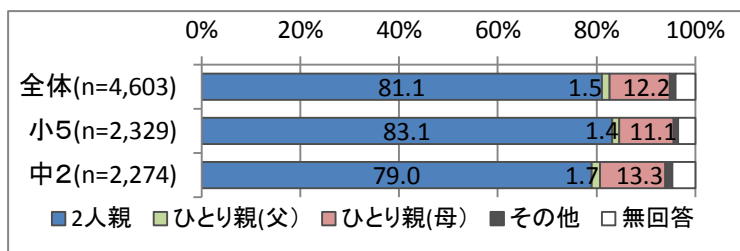
分類3 (中央値以上)	中央値 238万円	—
分類2	中央値の50% 119万円	—
分類1 (貧困線未達)		

#### (貧困線のイメージ)



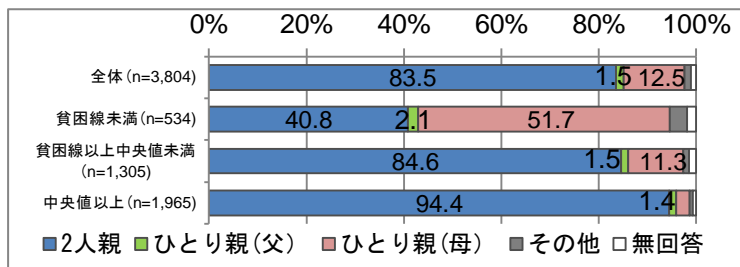
## 【1. 世帯の属性】

### ①-1 世帯構成(ひとり親等の別)



ひとり親世帯が全体では14%近い割合となった(祖父母等との同居含む)。ひとり親世帯では母子家庭がほとんどを占めている。

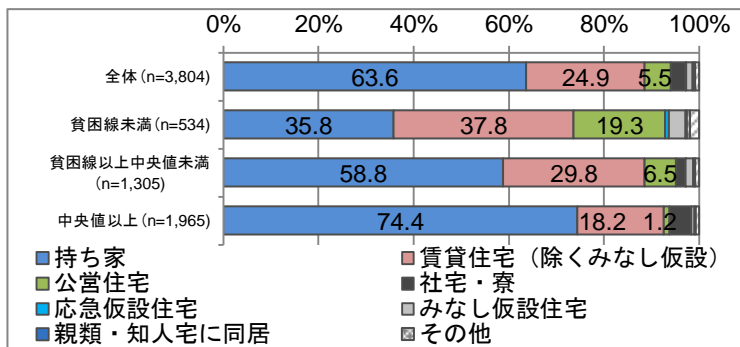
### ①-2 世帯構成(所得分類別)



所得分類別に見ると、貧困線未満では、特にひとり親(母)の割合が50%を超えている。

### ②住居の種別

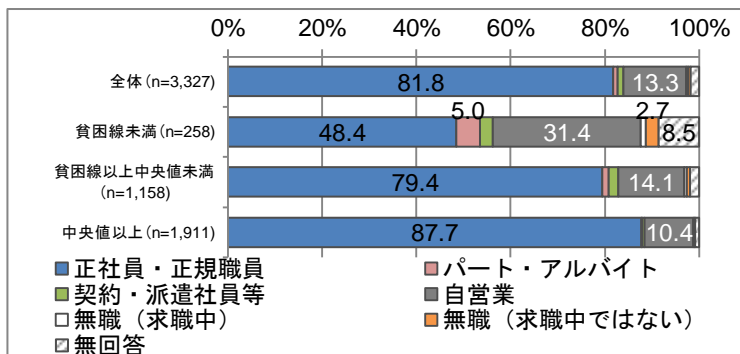
全体では持ち家が6割を超えているが、貧困線未満では公営住宅の割合が2割近くとなった。



	全体	貧困線未満	中分類	中央値以上
持ち家	63.6	35.8	58.8	74.4
賃貸住宅	24.9	37.8	29.8	18.2
公営住宅	5.5	19.3	6.5	1.2
社宅・寮	3.0	0.0	2.0	4.5
応急仮設住宅	0.1	0.7	0.1	0.0
みなし仮設住宅	1.4	3.6	1.6	0.7
親類・知人宅に同居	0.1	0.2	0.2	0.0
その他	0.3	0.7	0.2	0.3
無回答	0.9	1.9	0.8	0.7
計	100.0	100.0	100.0	100.0

### ③-1 就業状況(父)

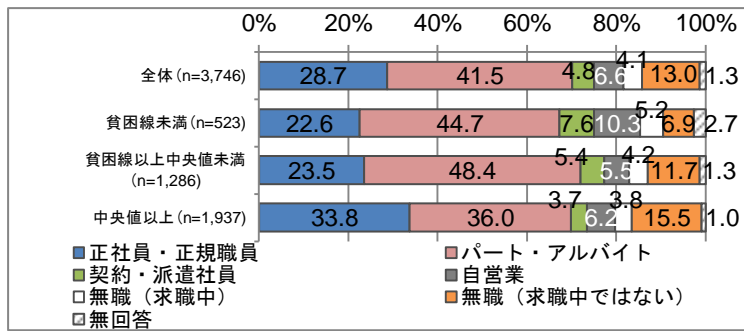
全体では8割が「正社員・正規職員」だが、貧困線未満では5割を切っており逆に「自営業」の割合が3割を超えた。



	全体	貧困線未満	中分類	中央値以上
正社員・正規職員	81.8	48.4	79.4	87.7
パート・アルバイト	1.0	5.0	1.3	0.2
契約・派遣社員等	1.2	2.7	2.1	0.5
自営業	13.3	31.4	14.1	10.4
無職(求職中)	0.4	1.2	0.5	0.2
無職(求職中ではない)	0.5	2.7	0.6	0.2
無回答	1.8	8.5	2.0	0.8
計	100.0	100.0	100.0	100.0

### ③-2 就業状況(母)

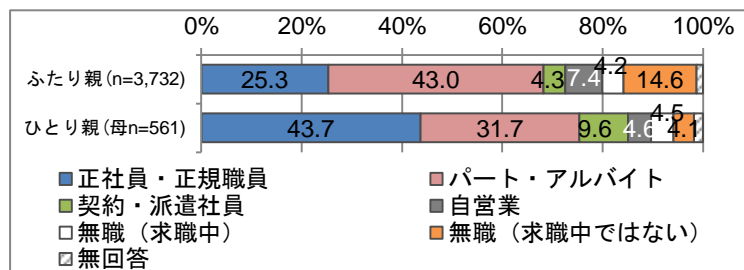
全体では3割弱が「正社員・正規社員」だが、貧困線未満では2割強となった。



	全体	貧困線未満	中分類	中央値以上
正社員・正規職員	28.7	22.6	23.5	33.8
パート・アルバイト	41.5	44.7	48.4	36.0
契約・派遣社員等	4.8	7.6	5.4	3.7
自営業	6.6	10.3	5.5	6.2
無職(求職中)	4.1	5.2	4.2	3.8
無職(求職中ではない)	13.0	6.9	11.7	15.5
無回答	1.3	2.7	1.3	1.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0

### ③-3 就業状況(母)(世帯分類別)

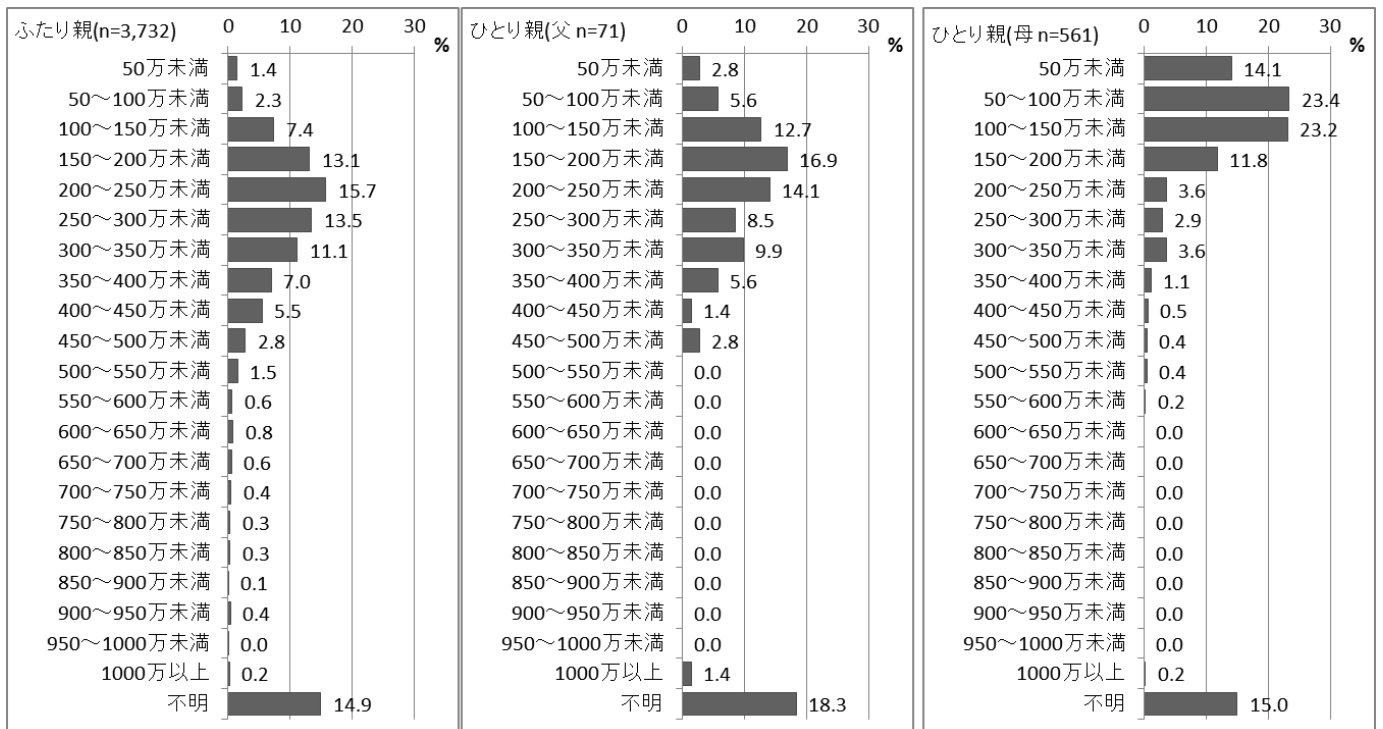
ひとり親の母では、「正社員・正規社員」の割合が4割程度である。



	ふたり親	ひとり親
正社員・正規職員	25.3	43.7
パート・アルバイト	43.0	31.7
契約・派遣社員	4.3	9.6
自営業	7.4	4.6
無職(求職中)	4.2	4.5
無職(求職中ではない)	14.6	4.1
無回答	1.3	1.8
計	100.0	100.0

### ④可処分所得(収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入)

ふたり親とひとり親で差があり、特にひとり親の母で差が顕著である。

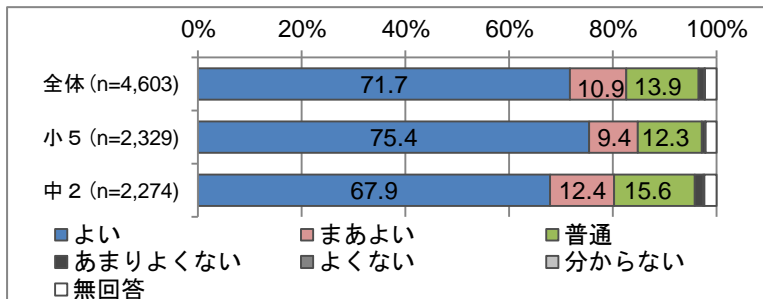


## 【2. 生活状況】

### (子どもの健康・食習慣等)

#### ①-1 子どもの健康状態（保護者回答）

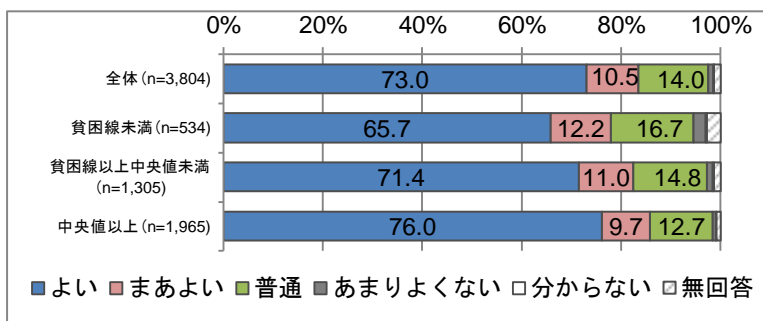
全体では95%以上が「普通」以上であった。



	全体	小5	中2
よい	71.7	75.4	67.9
まあよい	10.9	9.4	12.4
普通	13.9	12.3	15.6
あまりよくない	1.1	0.6	1.6
よくない	0.0	0.0	0.0
分からない	0.1	0.1	0.2
無回答	2.2	2.1	2.3
計	100.0	100.0	100.0

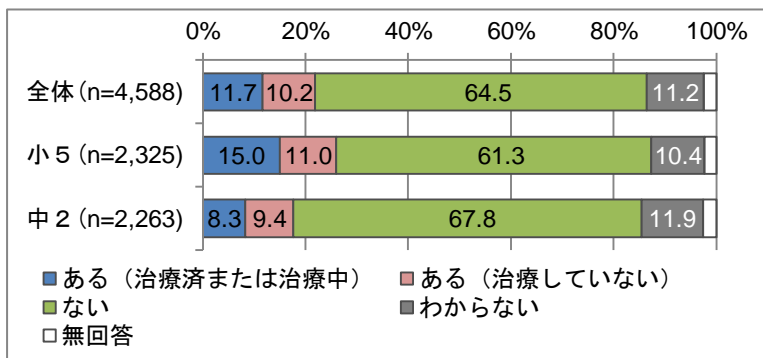
#### ①-2 子どもの健康状態（所得分類別）

所得分類別で「よい」の割合に若干差が出ている。



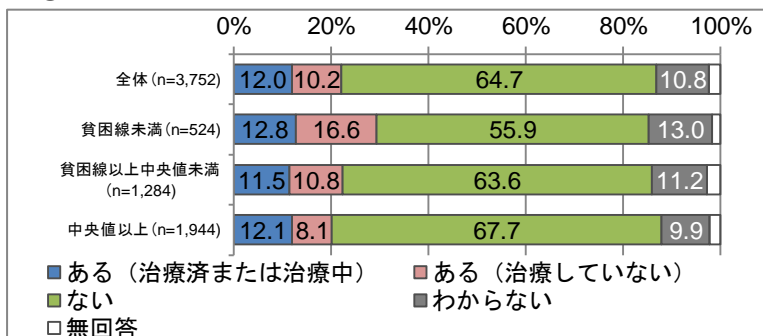
	全体	貧困線未満	中分類	中央値以上
よい	73.0	65.7	71.4	76.0
まあよい	10.5	12.2	11.0	9.7
普通	14.0	16.7	14.8	12.7
あまりよくない	1.1	2.4	1.1	0.7
分からない	0.1	0.2	0.2	0.1
無回答	1.3	2.8	1.4	0.9
計	100.0	100.0	100.0	100.0

#### ②-1 ムシ歯の有無（子ども回答）（学年別）



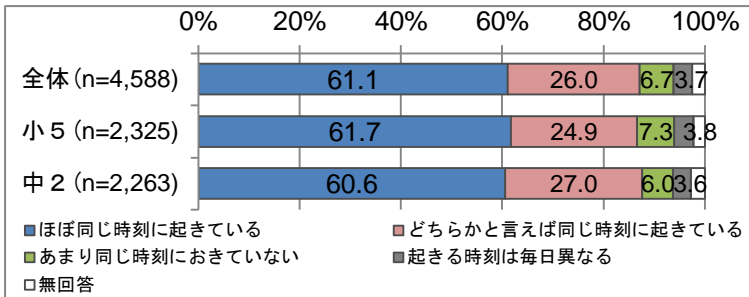
中2と比較し、小5では「ある」割合が高く「治療していない」割合も10%を超えている。

#### ②-2 ムシ歯の有無（子ども回答）（所得分類別）



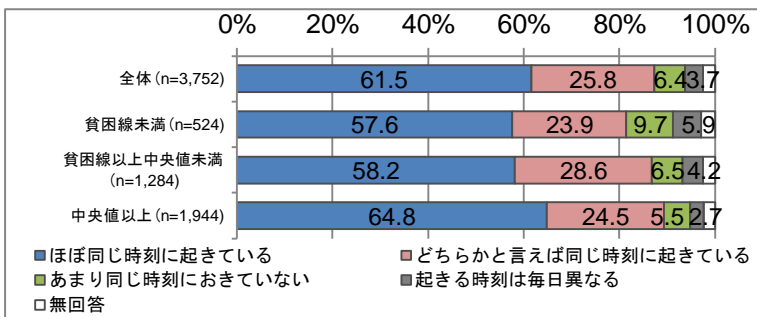
所得分類別では、所得が低いほど「ある（治療していない）」割合が比較的高くなっている。

③-1 同じ時刻に起床しているか（子ども回答）（学年別）



学年別の差はほとんどない。

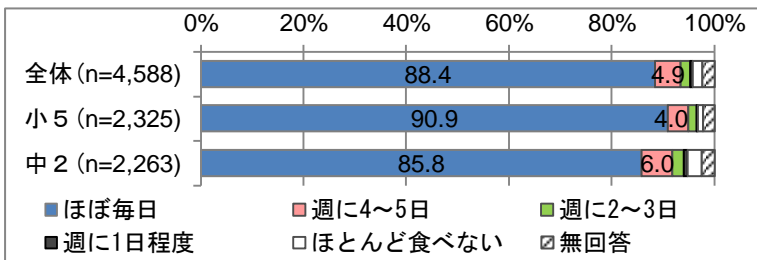
③-2 同じ時刻に起床しているか（子ども回答）（所得分類別）



所得分類が低いほうが「あまり同じ時刻に起きていない」「起きる時間は毎日異なる」の割合が高い傾向にある。

④-1 朝食を食べる頻度（子ども回答）

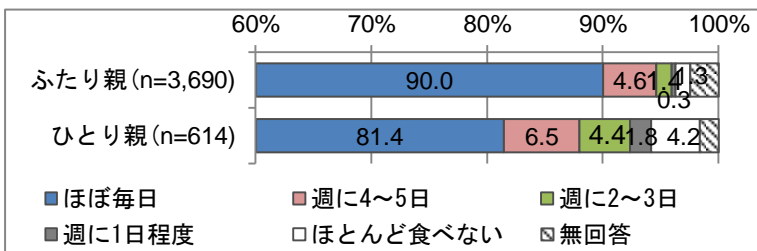
朝食を食べる頻度では、学年による差が若干ある。



	全体	小5	中2
ほぼ毎日	88.4	90.9	85.8
週に4~5日	4.9	4.0	6.0
週に2~3日	1.9	1.6	2.3
週に1日程度	0.5	0.3	0.8
ほとんど食べない	1.9	1.0	2.7
無回答	2.4	2.2	2.6
計	100.0	100.0	100.0

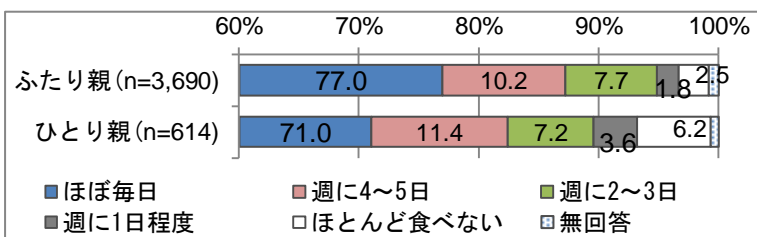
④-2 朝食を食べる頻度（子ども回答）（世帯構成別）

ひとり親世帯では食べる頻度が低い傾向となった。



	ふたり親	ひとり親
ほぼ毎日	90.0	81.4
週に4~5日	4.6	6.5
週に2~3日	1.4	4.4
週に1日程度	0.3	1.8
ほとんど食べない	1.3	4.2
無回答	2.4	1.6
計	100.0	100.0

⑤保護者と一緒に夕食を食べる頻度（子ども回答）（世帯構成別）

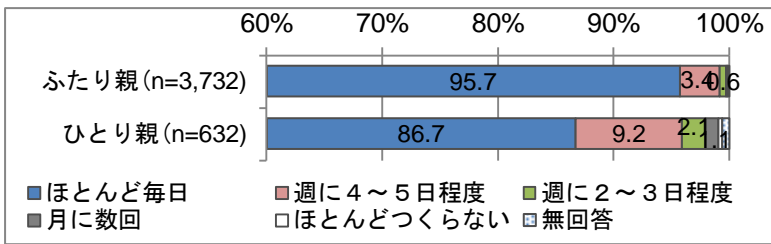


保護者と夕食を「ほぼ毎日食べる」頻度では、ひとり親世帯では頻度が相対的に低い傾向にある。



⑥食事を作る頻度（保護者回答）（世帯構成別）

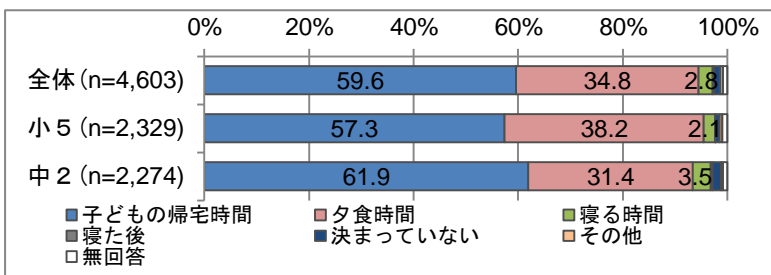
保護者が食事を作る頻度では、ひとり親世帯で頻度が低い傾向となった。



	ふたり親	ひとり親
ほとんど毎日	95.7	86.7
週に4～5日程度	3.4	9.2
週に2～3日程度	0.6	2.1
月に数回	0.1	1.1
ほとんどつくらない	0.0	0.3
無回答	0.2	0.6
計	100.0	100.0

（保護者と子の関わり）

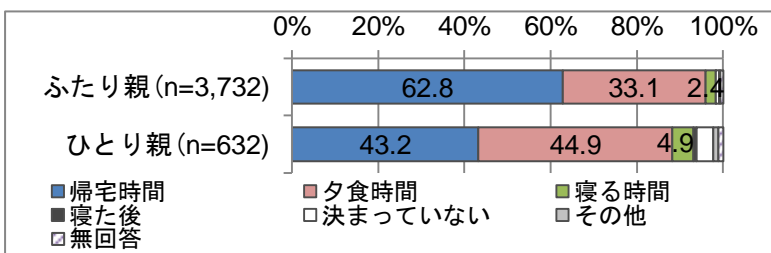
①-1 保護者が家にいる時間帯（保護者回答）



保護者が家にいる時間帯では、「子どもの帰宅時間にはいる」が6割程度、「夕食時間にはいる」が3割を超えている。

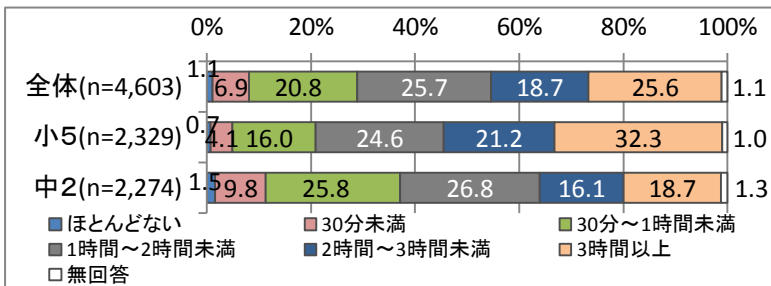
①-2 保護者が家にいる時間帯（保護者回答）（世帯構成別）

ふたり親と比較しひとり親で遅くなる傾向にある。



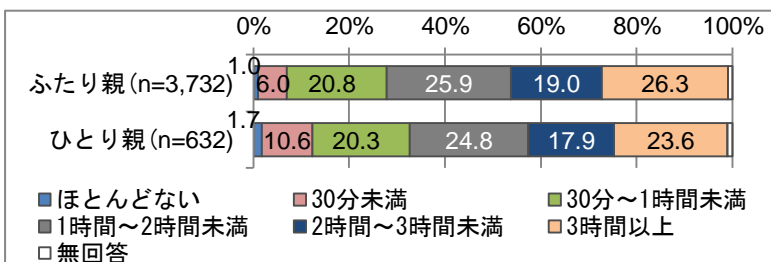
	ふたり親	ひとり親
帰宅時間	62.8	43.2
夕食時間	33.1	44.9
寝る時間	2.4	4.9
寝た後	0.1	0.8
決まっていない	0.7	3.8
その他	0.3	1.3
無回答	0.7	1.1
計	100.0	100.0

②-1 子どもと一緒に遊びや会話等をする時間（平日）（保護者回答）



子どもと一緒に遊びや料理、会話等をする時間は学年で差があり、小5では平日で3時間以上が多いが、中2では短くなり2時間未満の割合が高い。

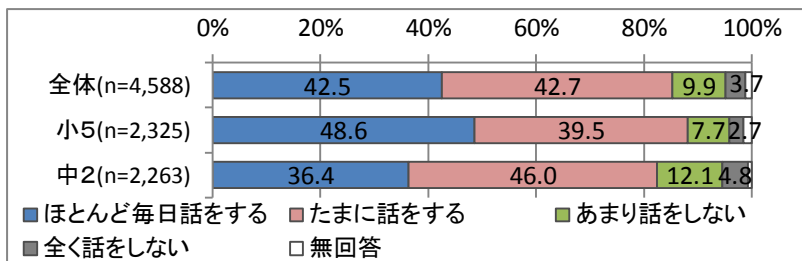
②-2 子どもと一緒に遊びや会話等をする時間（平日）（世帯構成別）



所得分類別による差はあまりなかったが、ひとり親で短くなる傾向にある。

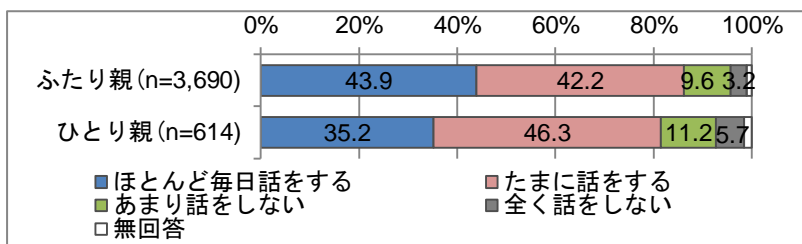


③-1 保護者と学校のことを話す頻度（子ども回答）



全体では「ほとんど毎日」「たまに」を合わせると8割を超えたが、「あまり話をしない」、「全く話をしない」も合わせて1割を超えている。

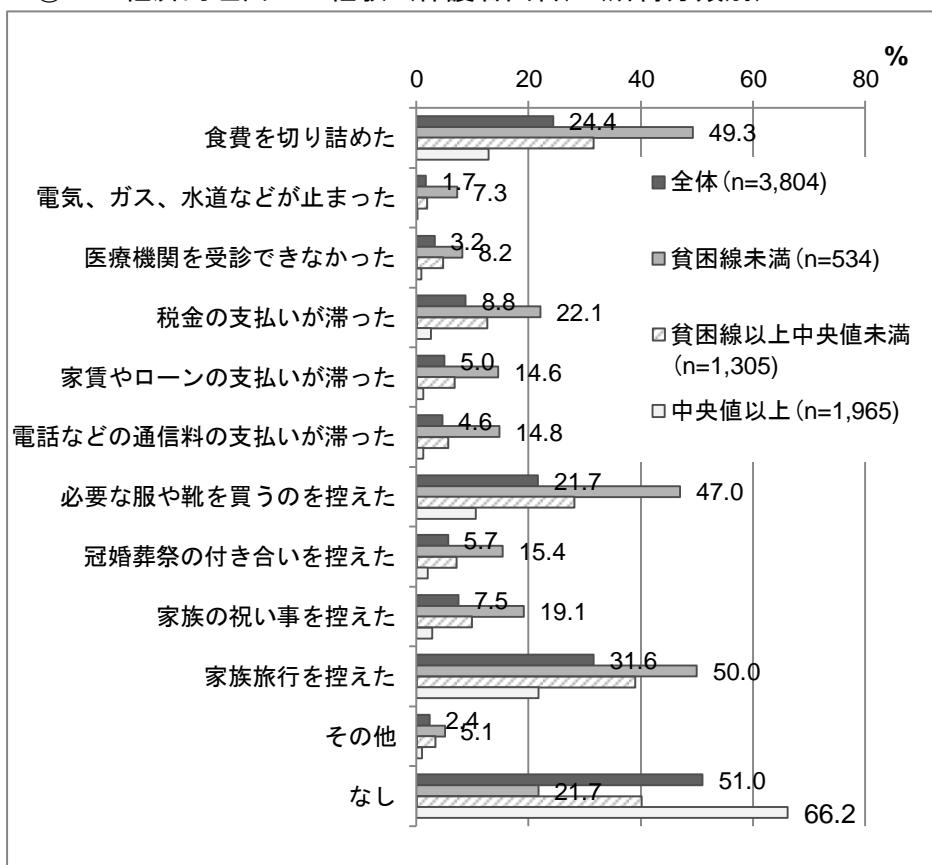
③-2 保護者と学校のことを話す頻度（子ども回答）（世帯構成別）



ひとり親では相対的に学校のことを話す頻度が少ない傾向にある。

【3. 経済的要因による困難なこと】

①-1 経済的理由での経験（保護者回答）（所得分類別）

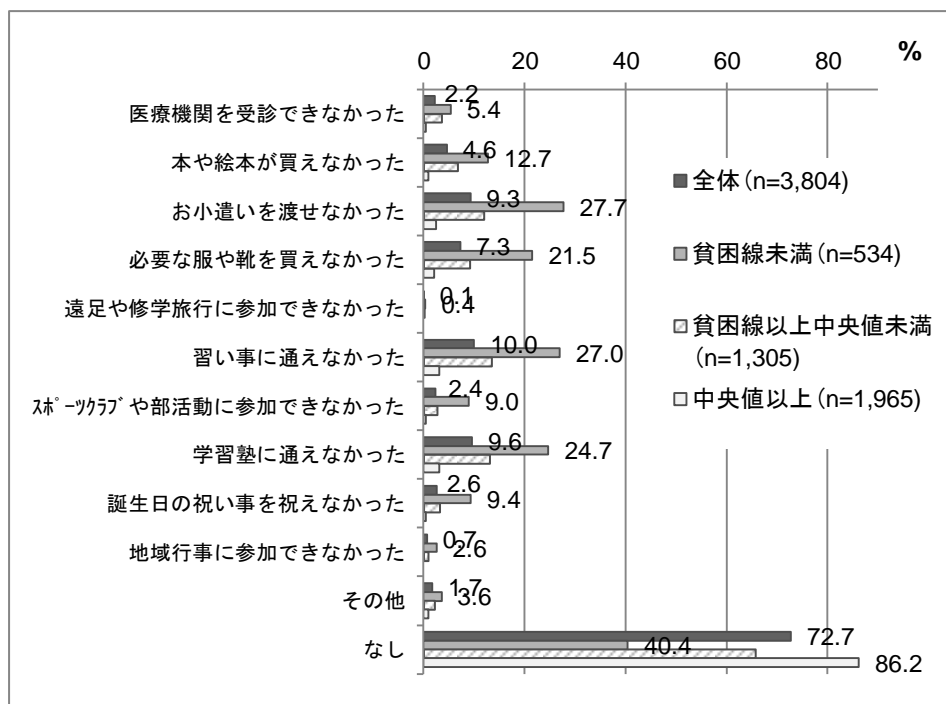


全体では「なし」が5割を超えたが、「食費を切り詰めた」、「必要な服や靴を買うのを控えた」、「家族旅行を控えた」経験が2割を超えている。

またこの項目は、特に貧困線未満では約5割となった。

税金や家賃等の支払いが滞った割合、ライフラインが止まった、医療機関を受診できなかった割合も一定数存在した。

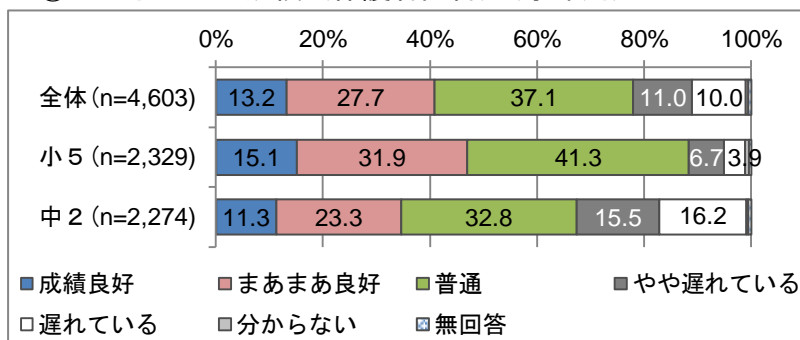
①-2 経済的理由での経験(子どもが希望したができなかったこと) (保護者回答) (所得分類別)



全体では「なし」が約7割だったが、貧困線未満では4割程度にとどまっている。特に貧困線未満では、「お小遣いを渡せなかった」「必要な服や靴を替えなかった」「習い事に通えなかった」「学習塾に通えなかった」が2割を超えている。

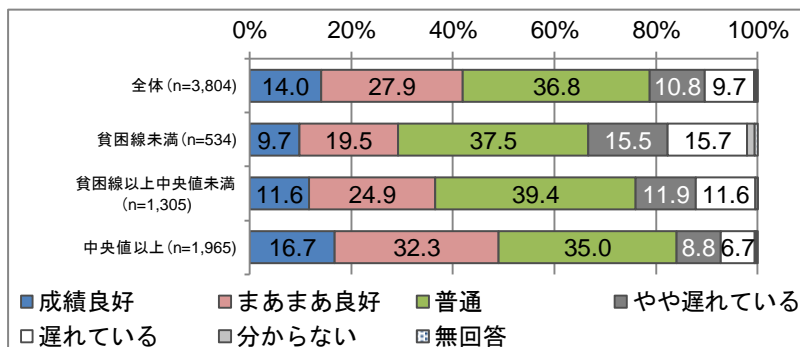
【4. 子どもの学習・学校生活等】

①-1 子どもの成績(保護者回答)(学年別)



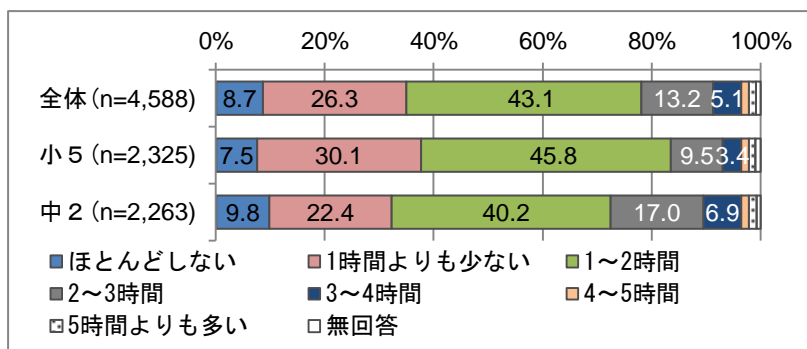
全体では「普通」以上が約8割弱となった。学年による差異があり、中2では「やや遅れている」「遅れている」の割合が3割以上と高い。

①-2 子どもの成績(保護者回答)(所得分類別)



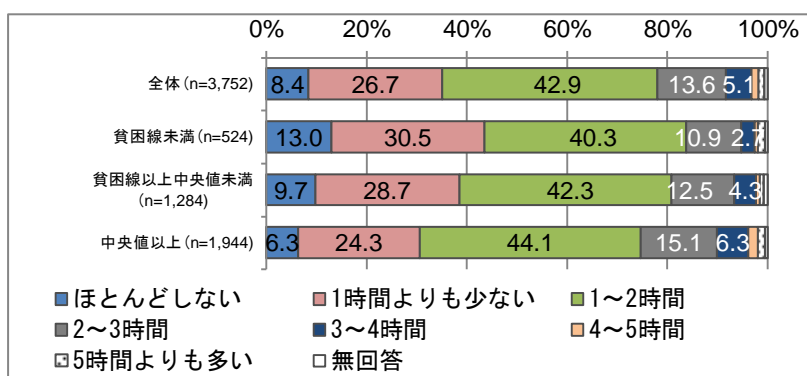
所得分類が低いほうが「やや遅れている」「遅れている」の割合が高くなった。

②-1 平日の子どもの学習時間（子ども回答）（学年別）  
学年による差異がある。



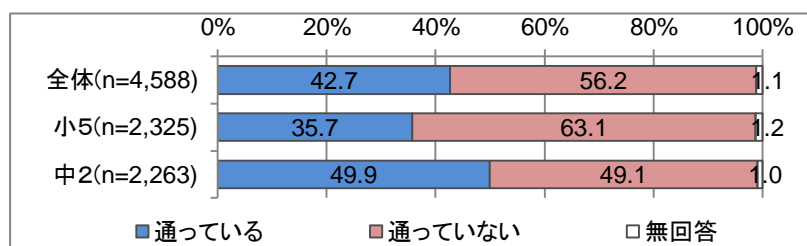
	全体	小5	中2
ほとんどしない	8.7	7.5	9.8
1時間よりも少ない	26.3	30.1	22.4
1~2時間	43.1	45.8	40.2
2~3時間	13.2	9.5	17.0
3~4時間	5.1	3.4	6.9
4~5時間	1.5	1.4	1.5
5時間よりも多い	1.2	1.1	1.4
無回答	0.9	1.0	0.7
計	100.0	100.0	100.0

②-2 平日の子どもの学習時間（子ども回答）（所得分類別）  
所得分類が低いほうが学習時間が短い傾向にあった。



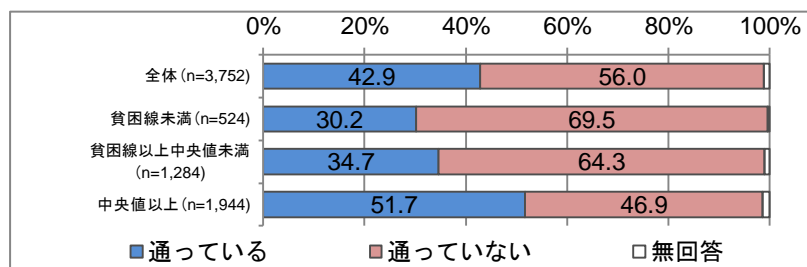
	全体	貧困線未満	中分類	中央値以上
ほとんどしない	8.4	13.0	9.7	6.3
1時間よりも少ない	26.7	30.5	28.7	24.3
1~2時間	42.9	40.3	42.3	44.1
2~3時間	13.6	10.9	12.5	15.1
3~4時間	5.1	2.7	4.3	6.3
4~5時間	1.3	0.8	0.8	1.9
5時間よりも多い	1.2	1.3	0.9	1.4
無回答	0.6	0.6	0.8	0.6
計	100.0	100.0	100.0	100.0

③-1 塾の利用（子ども回答）（学年別）



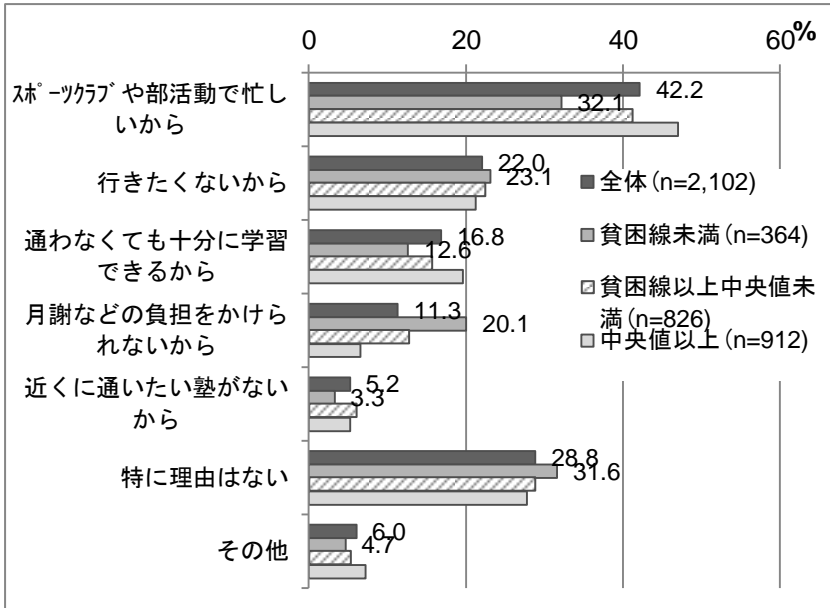
小5でも3割以上、中学校では約5割が塾に通っている。

③-2 塾の利用（子ども回答）（所得分類別）



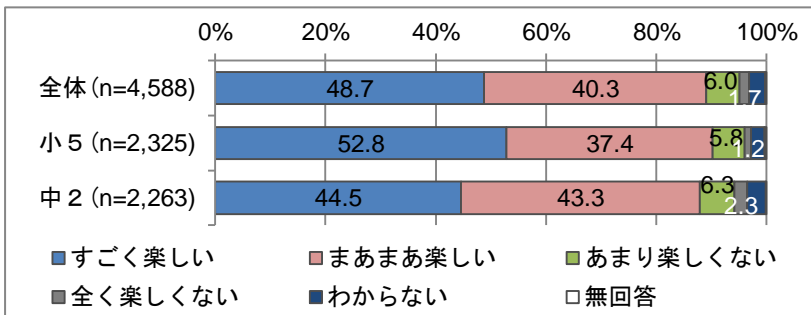
所得分類が低いほうが、学習塾に「通っている」割合が3割程度と低い傾向にある。

③-3 塾に通っていない理由（子ども回答）（所得分類別）



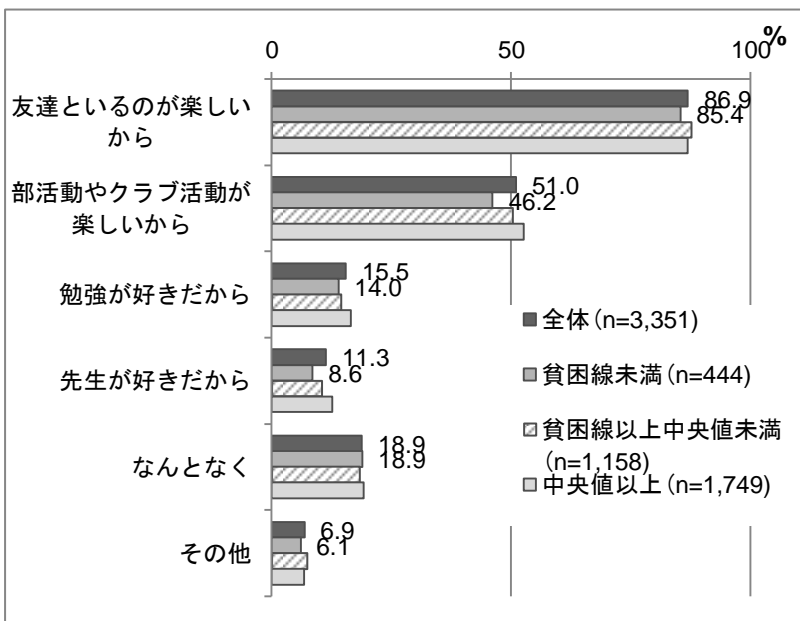
塾に通っていない理由では「スポーツクラブや部活で忙しいから」「特に理由はない」が多いが、特に貧困線未満では「月謝などの負担をかけられないから」が2割を超えている。

④-1 学校は楽しいか（子ども回答）（学年別）



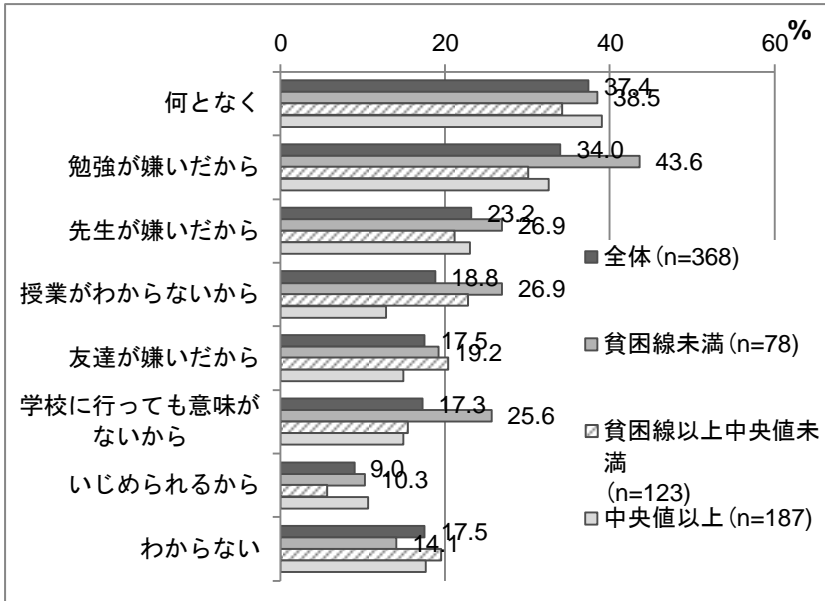
「すごく楽しい」「まあまあ楽しい」を含め全体で9割近い割合となった。

④-2 楽しい理由（子ども回答）（所得分類別）



楽しい理由では、「友達といるのが楽しい」「部活動やクラブ活動が楽しい」の割合が高かった。所得分類による差はあまりない。

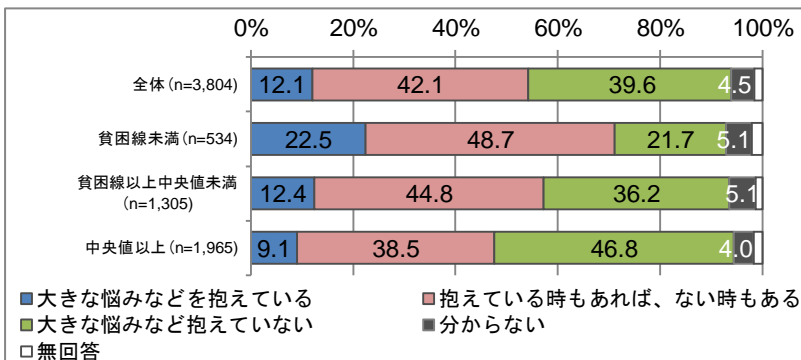
④-3 楽しくない理由（子ども回答）（所得分類別）



楽しくない理由では、全体として「何となく」「勉強が嫌いだから」の割合が高いが、特に貧困線未満で「勉強が嫌いだから」「先生がきらいだから」「授業がわからないから」「学校に行っても意味がないから」の割合が高くなっている。

【5. 悩み事・相談できる人の有無】

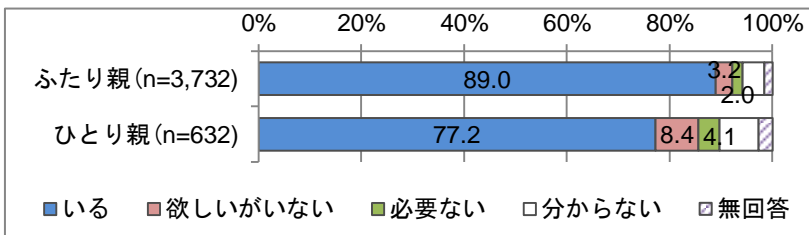
① 悩み事の有無（保護者回答）（所得分類別）



悩み事の有無では所得分類が低いほど「悩みを抱えている」の割合が高い。

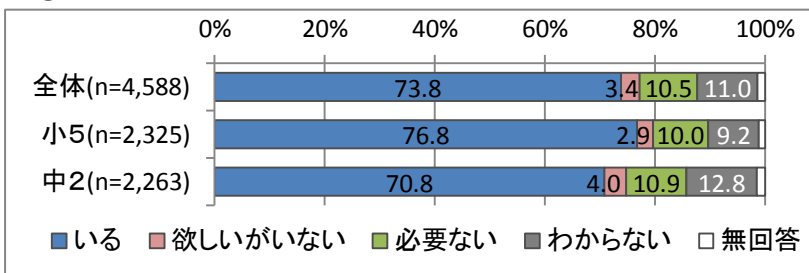
特に、貧困線未満は2割以上が「大きな悩みなどを抱えている」となった。

②-1 相談できる人の有無（保護者回答）（世帯構成別）



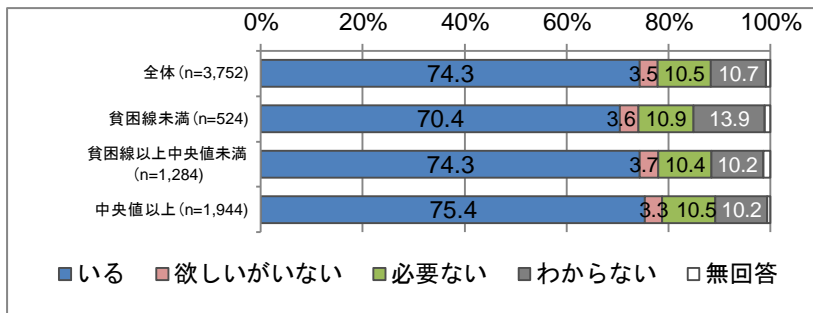
相談できる人の有無では、ひとり親で「欲しいがない」の割合が相対的に高い。

②-2 相談できる人の有無（子ども回答）



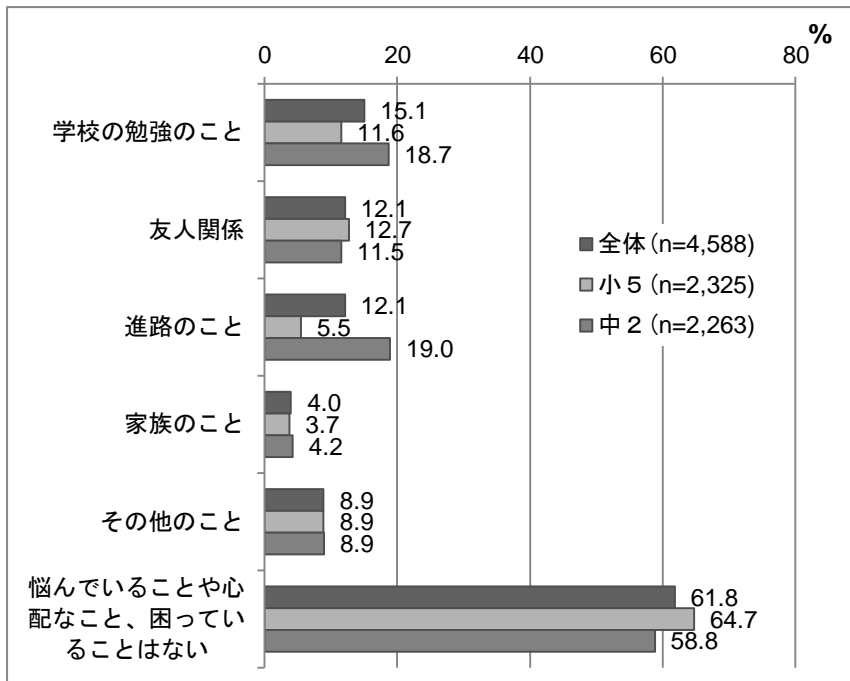
学年別で「いる」の割合に若干の差がある。

②-3 相談できる人の有無（子ども回答）（所得分類別）



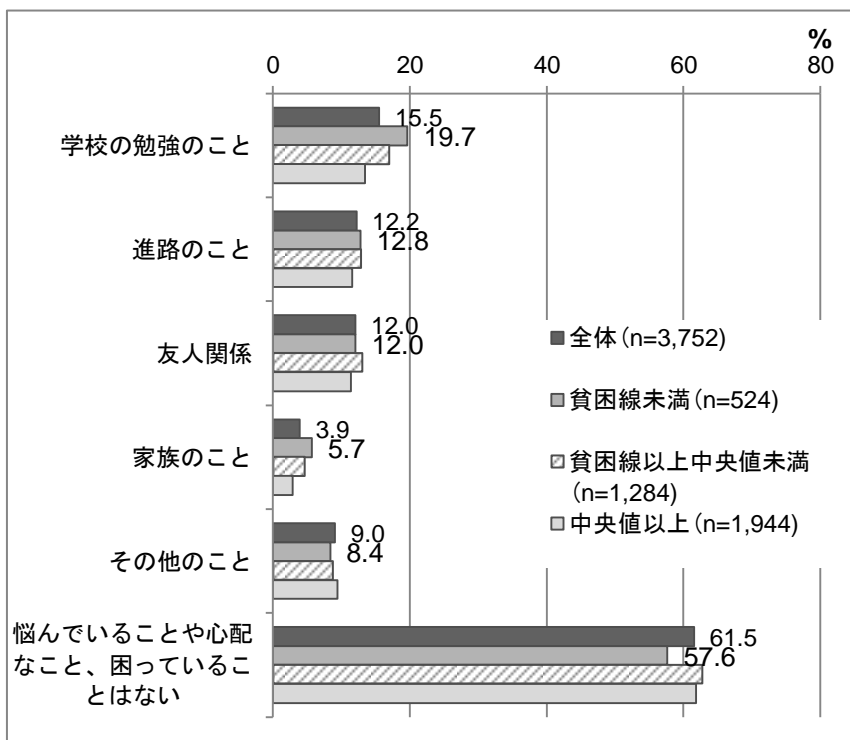
相談できる人の有無では、貧困線未満で「いる」の割合が相対的に低い傾向となった。

②-4 悩んでいること、心配事、相談したいこと（子ども回答）（学年別）



全体では悩んでいることなどは「ない」が6割を越えたが、中2では「学校の勉強のこと」「進路のこと」が比較的高い割合となった。

②-5 悩んでいること、心配事、相談したいこと（子ども回答）（所得分類別）



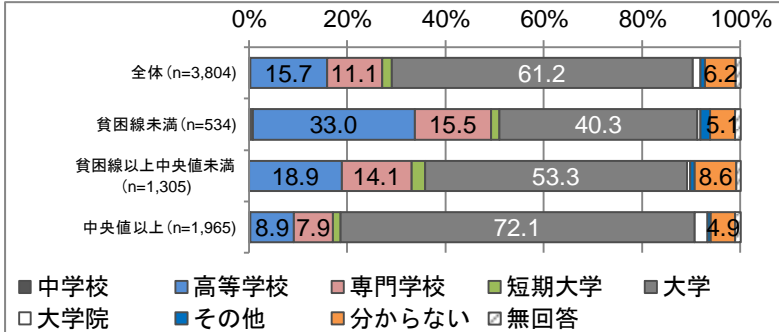
所得分類別では、所得が低いほど「学校の勉強のこと」「家族のこと」が相対的に高くなった。



## 【6. 子どもの将来・自己肯定感など】

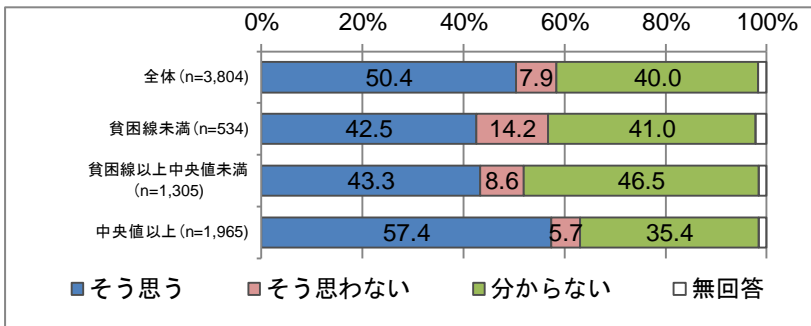
### ①-1 子どもを進学させたい意向（保護者回答）（所得分類別）

子どもをどの学校まで進学させたいかでは、全体では約6割が「大学」となったが、所得分類別では「大学」までの回答に顕著な差が出ている。



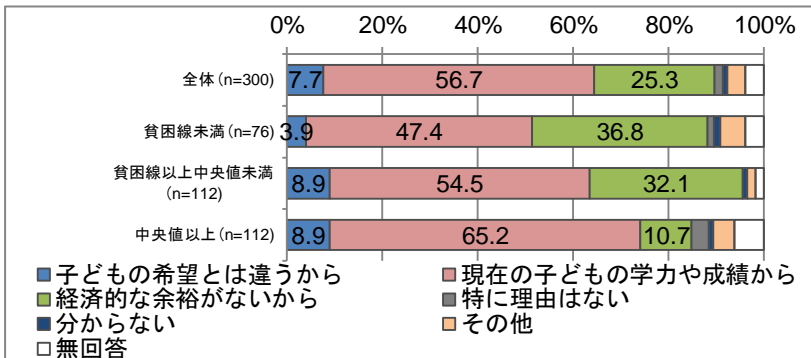
	全体	貧困線未満	中分類	中央値以上
中学校	0.2	0.7	0.0	0.3
高等学校	15.7	33.0	18.9	8.9
専門学校	11.1	15.5	14.1	7.9
短期大学	2.0	1.7	2.8	1.6
大学	61.2	40.3	53.3	72.1
大学院	1.6	0.6	0.5	2.6
その他	1.0	2.1	0.9	0.7
分からない	6.2	5.1	8.6	4.9
無回答	1.0	1.1	0.8	1.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0

### ①-2 進学させることが可能と思うか（保護者回答）（所得分類別）



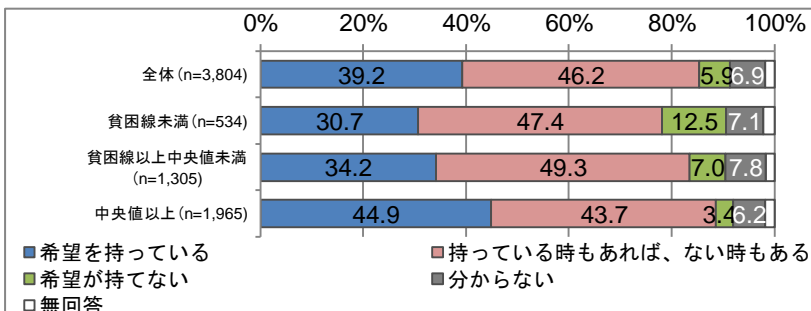
全体では「そう思う」が5割を超えた。  
所得分類が低いほど「そう思わない」「分からない」の割合が高くなった。

### ①-3 そう思わない理由（保護者回答）（所得分類別）



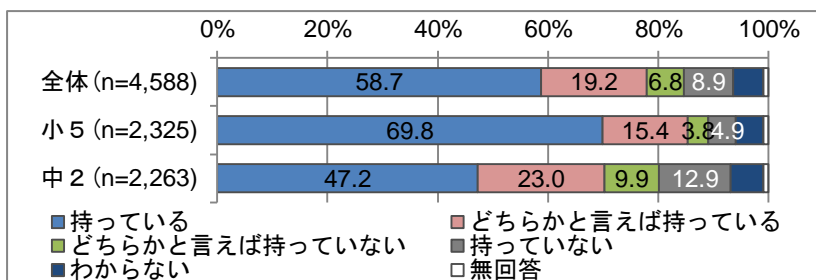
全体では「現在の子どもが学力や成績から」が5割を超えたが、所得分類が低いほど「経済的な余裕がないから」が高くなった。

### ②-1 将来の希望の有無（保護者回答）（所得分類別）



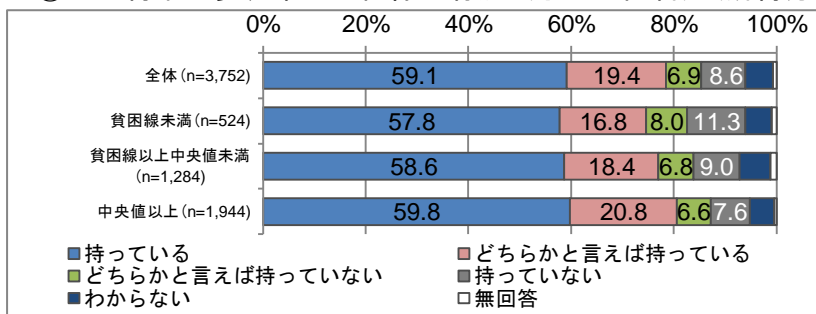
保護者に将来の希望を持っているか聞いたところ、所得分類が低いほど「希望を持っている」割合が低くなった。

②-2 将来の夢、希望・目標の有無（子ども回答）（学年別）



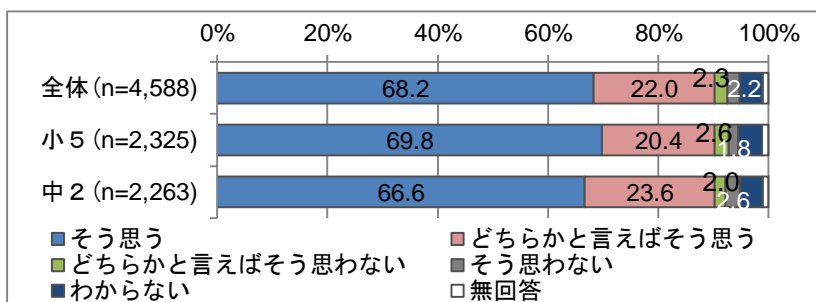
全体として、「持っている」と回答した割合は約6割であった。  
特に中2では5割をきった。

②-3 将来の夢、希望・目標の有無（子ども回答）（所得分類別）



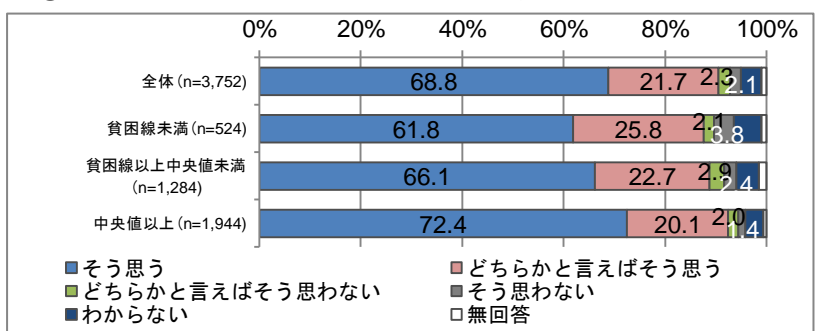
所得分類別では、「持っていない」に若干の差があった。

②-4 将来のために勉強スポーツを頑張りたいと思うか（子ども回答）（学年別）



「そう思う」の割合は学年で差が若干あった。

②-5 将来のために勉強スポーツを頑張りたいと思うか（子ども回答）（所得分類別）



所得分類別では、所得が低いほど「そう思う」の割合が低い傾向となった。